



市民の会
草野 勝義 議員

▼市役所職員のワーク・ライフ・バランスの実現

Q 市職員の給与制度の総合的見直しにより、平成二十七年から給料を引き下げることになった理由は何か。

A 国家公務員は人事院勧告により、民間賃金の低い地域において賃金水準をより適切に公務員給与へ反映することや、五十歳代後半層の給与水準を見直すなど、民間水準との比較が精査されていると考えており、本市も国の制度に準じて、平成二十七年四月から職員の給与を見直すことにしている。

Q 給与制度の見直しによる市職員の生涯賃金への影響額は幾らか。

A 平成二十六年度の改定後の給料表と、平成二十七年の度の新給料表による定年退職までの生涯賃金を比較すると、高卒採用者の場合は約三百十萬円の減少、大卒採用者の場合は約三百三十四萬円の減少となる。

Q 今回の給与改定は、優秀な若い職員を育てる上で弊害となると思うがどうか。また、地元企業への影響をどのように考えているのか。

A 今回の人事院勧告は、若年層の給

料の減少幅を抑えるなど、若手職員の意欲低下の防止や優秀な人材の確保等に配慮された内容だと考えている。また、市職員の給料引き下げが、民間賃金に直接影響するとは考えていない。

Q ありあけ荘は平成二十七年途中で民間移譲をしたとのことだが、そこで働いている職員の雇用先等が心配される。専門的な職業能力を生かせる雇用のあり方は検討できないのか。

A 職場がなくなることになるので、その経験を生かしてどのような仕事ができるのか話し合いをしていく必要があると思っている。正規職員については、調理員の経験を生かせる業務がなにか関係部局と検討していきたい。

▼低年金生活者の生活支援について

Q 低年金者や無年金者が社会問題となっているが、支援策はどのように考えているのか。

A 全国市長会において、受給権を満たさない無年金者への救済措置や継続可能な年金制度を構築するため、最低保障年金を含め、適切な見直しを実施するよう要望を行っており、早期に実施されることを切望している。

【その他の質問項目】

◇交通政策と観光交通について



チーム I
馬渡 光春 議員

▼温泉給湯事業について

Q 現在整備している、①ヒートポンプと、②給湯管布設替えの事業内容と進捗状況はどうか。

A ①国の補助を活用してシステムを構築し、宝酒造島原工場から排出されるお湯を熱源として温泉を加温するもので、当初は二十六年で完成予定だったが、システム制御盤等の納期の遅れにより工事が未完成となっている。

②温泉スケールの付着による管の詰まりや老朽化により、保温効果が薄れてきた温泉配湯管の全面的な布設替えを行うものであり、二十七年中に全工事を完了させ、排湯を利用したヒートポンプシステムの稼働を始めた。

Q ①ヒートポンプ導入の経費削減効果と、②合併特例債を活用できないか。

A ①年間二千万円から二千五百万円程度の経費が削減できる。②特別会計である温泉給湯事業は、その事業の収益で運用するのが原則なので、合併特例債の活用はできなかった。

Q 事業推進に向けてどう取り組むのか。

A ヒートポンプの稼働を開始後、正確なランニングコストを算出し、今回の工事のために借り入れ予定の起債の償還とあわせて、機器類のメンテナンス等、長期的な収支計画を立て、継続的な運営を図るため、温泉使用料の抜本的な見直しを行うとともに、今後、給湯停止などを含めた運用規定等も整備していきたい。

▼島原城について

Q 文化財指定に向けた取り組みの進捗状況はどうか。

A 県の指導をいただきながら島原城の県史跡指定を目指して取り組みたい。

Q 平成二十四年の豪雨で石垣が崩落したが、①石垣の保存と保護対策はどのように取り組むのか。②樹木の伐採はどのようするのか。

A ①島原城石垣台帳作成事業により、石垣の状況が確認できたため、この成果を生かし、定期的な観察をしながら石垣の状況を把握し、雨水の処理、石垣の補強など、適切に保存、保護に努めたい。②樹木の伐採については、市長を囲む懇談会において意見を求めたところ、数多くの意見が石垣を守るためには伐採はやむを得ないというものだったため、石垣を守る観点から、城壁や樹木の専門家等による検討委員会を設置し、伐採したほうがいいと判断された樹木については、伐採していきたいと考えている。